

鳥取大学教育研究林の近況

鳥取大学農学部附属フィールドサイエンスセンター

2023年5月までは新型コロナへの対応として、宿泊者数を制限する、食堂の机の上にアクリル板を設置する、体温測定など基本的な感染対策を徹底するといった対策を行ったうえで実習を実施していた。同月8日に新型コロナが5類感染症に移行された後、集団生活に伴う一般的な感染症対策（手洗いの励行など）は必要なものの、これまでの制限が廃止された。これにより、コロナ禍前とほぼ同様の形態で演習林施設を利用することができるようになった。

また、昨年度から演習林施設のネットワーク環境（eduroam）について整備を行っていたが、2023年3月から国立情報学研究所のeduroam JP 認証連携IDサービスを用いたビジター用無線LANを運用することになり、学外者向けのネットワーク環境も整備された。これにより、学内、学外者を問わず演習林施設において支障なくネットワークを使用することができるようになり、教育、研究の環境が向上した。

さらに、演習林施設の屋根の改修、和室の畳替え、演習林内の林道改修（水路補修）などを行い、演習林の施設整備を推進した。



写真1 樹幹解析用の円板採取



写真2 室内実習（樹幹解析）